

シグマ研究委員会 JENDL 積分評価 W.G. 1979 年度第 1 回会合

日 時 : 1979 年 6 月 1 日 13:30 ~ 17:30

場 所 : 本部第 35 会議室

出席者 : 菊池, 高野, 石黒 (原研), 大竹, 佐々木 (動燃), 関, 宝珠山
(MAPI), 亀井 (NAIG), 松延 (住原工)

配布資料

1. JENA-24 : 佐々木 : MZB (3) 炉心・径方向反応率分布
- Fe, Cr, Ni 置換効果
2. JENA-25 : 当 W.G. : JENDL-1 のベンチマークテスト (II)
“ 炉物理の研究 ” 第 27 号投稿原稿

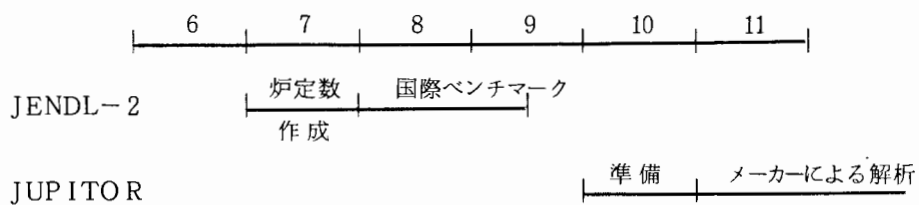
議 事

1. MZB の反応率分布…配布資料(1)に基き佐々木氏より報告
 - Fe Cr Ni を ENDF/B-IV に置換して比較をした。
 - その際に、核データセンターの手違いで Cr, Ni を逆にしてしまったので、今回の報告は大体の傾向である。
 - 結論として、径方向の σ_f 分布は Pu-240 も含めて、置換した方が C/E の過小評価が顕著となる。

討 論

- 第 2 群の D が 10% も異なるのに 1 次元で B^2 一定の条件ではおかしいのではないか。2 次元計算でみると、第 2 群の DB^2 の差は pseudo-absorption として I. C. で 3%, Blanket で 5% の差となる。
 - JAERI-Fast-2 でもやって見てはどうか。
 - Thermal neutron の寄与は ^{241}Pu でも 1% 以下である。
 - 2 次元計算を原研原子炉システム研でやってみる事になった。
2. JENDL-2 の積分テストのスケジュール
 - JENDL-2 の編集がやや遅れて 6 月末になりそうなので、スケジュー

ルは以下の通り



- 反応率分布を中心にした詳細解析を, 9月から2ヶ月かけて実行する必要性が主張され, さらに検討する事になった。

3. f-table の内挿法

高野氏

- 今後は spline fit を用いるが, 分点を増す必要がある。